那須の歴史再発見！

那須町と近現代の人々

vol.07

鮎瀬淳一郎(1826-1902)

7月号は伊王野出身の政治家・実業家である鮎瀬淳一郎について紹介します。

淳一郎（号：梅村）は、文政9年鮎瀬祐之烝政輔の長男として誕生しました。鮎瀬家の祖先は長沼氏の系統とされ、中世は伊王野氏家臣として活躍し、江戸時代には庄屋を務めました。父、政輔の代からは那須郡天領庄屋取締役となり、両郷・浄法寺・伊王野などの村を統括しました。

淳一郎は慶応4年、真岡陣屋支配所那須郡取締役を任ぜられます。明治12年には第1回栃木県会議員選挙で当選し、3期県会議員を務め、その間には下野産馬共同会社の社長なども歴任しました。

淳一郎の功績として那須野が原開拓と伊王野の官有林払い下げがあげられます。明治10年、淳一郎は「那須野開墾録」を鍋島幹県令に提出し、那須野が原開拓の必要性を訴えます。計画は実現しませんでしたが、養蚕、製茶、牧畜など輸出品を中心に生産することが書かれており、淳一郎の先見性がみえます。淳一郎は後に矢板武・印南丈作・甥の田代荒次郎らとともに那須開墾社の創設にも関わりました。

また、明治16～20年にかけては、荻昌吉・川村純義・大隈重信らが相次いで伊王野付近の官有地払下げ運動を行ったため、それを阻止し、その官有地を村有財産にするため尽力しました。その過程では、淳一郎だけでなく、松本政武・小山田倉三・大武十作・薄葉金五郎など地元の人々の協力もありました。

淳一郎は多くの人物と交流を持っていたことでも有名です。三条実美・副島種臣・勝海舟などと知遇を得ていました。また、松方正義は伊王野の霞岡温泉神社境内にある「鮎瀬梅村翁碑」の篆額（てんがく）をしています。

幕末から明治にかけて那須野が原開拓や伊王野の発展に尽くした淳一郎の精神や人生は、今一度町民が学ぶべきものだといえるでしょう。現在探訪館ではトピック展「鮎瀬淳一郎と伊王野」を開催中です。ぜひ足をお運びください。

集合写真

問合せ 那須歴史探訪館 ☎74-7007

かっこう

7月7日は七夕です。願い事を書いた短冊や七夕飾りを、笹の葉につるした経験がある人も多いのではないでしょうか。私は輪つづりを作ることが好きで、折り紙を細く切り分け、輪をつなげていき、色のグラデーションを楽しんでいました▼息子や娘たちが通った幼稚園では、七夕の行事として、朝露を使った墨で短冊に願い事を書くというものがありました。その日はいつもより早く起きて、朝の内はまだ少しひんやりとした空気の中、眠い目をこすりながら、庭の草木についている露を少しずつ集めて回りました。当時の私は「眠い。里芋の葉があればすぐ終わるのに。」と清々しい空気とは裏腹に、この作業をおっくうに感じていました▼後日、幼稚園に行くと、その朝露を使ったであろう墨で書かれた短冊が、笹に飾ってありました。ヒラヒラと風に揺れる短冊の中から我が子の願い事を見つけた時は、心が癒され、あの時の気持ちもどこかへ飛んで行ってしまったことを思い出します▼3月のひな祭り、5月の端午の節句、12月のクリスマスなど、子どもたちが幼かった頃は、積極的に関わってきた季節の行事ですが、日々の生活に追われ、今は随分と簡単に済ませるようになりました。忙しく過ごす日々は充実しているともいえますが、時折、季節を感じ、楽しめる余裕を持ちたいものです。

こんにちは赤ちゃん

令和4年2月生まれ

古森瑛真（えま）くん

瑛真くんは…

真っすぐ元気な子に育ちますように。いとこ（咲二ノ）と仲良くね♡

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報聴係（☎72-6901）まで。

町の世帯と人口

（6月1日現在・住民基本台帳）（ ）の数字は前月比

- 世帯数　10,578世帯（+18）
- 人口　24,410人（-18）
  - 男 12,162人（+1）
  - 女 12,248人（-19）

出生	8人	(- 2)
死亡	29人	(- 3)
転入	94人	(-39)
転出	87人	(-18)
その他	4人	

7月5日発行（月1回）／発行：那須町役場（〒329-3292栃木県那須郡那須町大字寺子丙3-13）編集：総務課（☎72-6901　FAX72-1133）
那須町公式ホームページアドレスhttps://www.town.nasu.lg.jp